

2 会派は発言なし！ スーパー堤防の是非論せず(建設委員会) 北小岩が出した<4号陳情>次回に結論(渡部委員長)

1 建設委員会傍聴記1

2月1日(月) 午前10時から建設委員会が開かれ、陳情第4号(莫大な税金を使うスーパー堤防事業は即刻中止し、内水氾濫対策を優先すべき)の審査が行われました。自民、公明の両会派は席上、ひと言も発言はしませんでした。また、渡部正明委員長(自民)は「何回も議論を重ねている。次回3月11日(金)に結論を出したい」としました。概要を伝えます。

渡部委員長 陳情4号から始めます。

本西光枝委員(生活者ネット) 先日の朝日新聞の社説には、水防に関しては公共施設の整備というハードが中心だったが、巨大なダム、スーパー堤防よりも水防意識の社会へ、ソフトが重要だ、とあった。東日本大震災のとき避難の在り方を学んだのではなかったのか。

土木部 ソフト対策だ。江戸川、葛飾足立、江東、墨田の東部5区で大規模水害のとき、どうするか、今後のソフト対策を練っている。大水害になれば本区は水没する。スーパー堤防も大切だし、東京と千葉を結ぶ都県橋も必要。ソフト、ハードを併せてやって行きたい。

本西委員 具体的計画はあるか。

土木部 地域防災計画に明記してある。

本西委員 雨水浸透補助金はあるのか。

土木部 本区はやっていない。

本西委員 条件はあるのか。

土木部 本区は低地のうえ地下水の水位が高い。浸透施設は逆に地下水を集めてしまうのでなじまない。

本西委員 これまでのやり方では適さないケースが出ています。雨水桝の上に介護器具を置いたりする。マンシヨンの

1階部分を高くするなど啓発活動はどうか。新しい住民は地域の特性を知らないのだ。

須田哲二委員(共産) 区民の広域避難の場合、水害、自然災害など、どの程度の規模を想定しているのか。

土木部 利根川、江戸川の場合はカスリン台風級だ。区のハザードマップは江戸川、荒川の氾濫時にどうなるかを示している。葛西や大島、小松川などの人工台地、さらには市川市の国府台に逃げる、となっている。

須田委員 カスリン以降、ビルなどの構築物が多くなり、事情は一変している。一度に水が押し寄せるとは考えられない。区のハザードマップは正確ではない。どんな豪雨ならこうするなど、集中的な対策をとっているか。予測は雑だ。くり返すが内水対策はきちんと設計すべきだ。

渡部委員長 何回も同じ質問をされるが、第2回定例会以降、議論している。委員は皆、考え方が違う。できれば次回採否をとりたい。

須田委員 委員会としての判断が必要だ。

土木部 どんな水害に対するか、線は引けない。5区で大規模災害にどう対応するか検討中だ。浸水履歴をみせるなどして住宅を建設してもらっている。

須田委員 4号陳情は急いで出来る対策をとれ、といっているのだ。

渡部委員長 3月11日の定例会で結論を出したい。他の会派はどうか。

栗原佑卓委員(自民) 結論出せる。

堀江創一委員(公明) 次回結論出す。

須田委員 スーパー堤防もやる、内水氾濫対策もやる。そうではない。4号は金のかかるスーパー堤防を止める、と言っている。結論は難しいのではないか。

(裏面に続く)